

2018年日露交流年（日本におけるロシア年及びロシアにおける日本年）記念 南海放送開局65周年記念特別番組 ,そして映画化

第1回日本放送文化大賞 ラジオ審査 グランプリ作品。

構想 10 年。

ラジオドラマ

「～松山ロシア人捕虜収容所外伝～ソローキンの見た桜」をついに映像化！

ソローキンの見た桜

製作 南海放送・平成プロジェクト
脚本 井上雅貴・香取俊介
監督 井上雅貴(映画「レミニセンティア」)

番組尺:60分(テレビ)120分(映画)

スケジュール:2018年6月より撮影、
2019年完成予定

日露で上映予定



【企画意図】このドラマは日露戦争のさなか、愛媛県松山に設置された「捕虜収容所」を舞台に、日本女性とロシア軍少尉の捕虜とが織りなす「愛」の物語です。日露戦争は、長い鎖国から目覚め「近代国家」に生まれ変わろうとする「若き日本」が大国に戦争を挑みました。そして、武士道が残る日本と騎士道が残るロシア、軍人同士はお互いを尊敬しながら戦った戦争です。「捕虜」の扱いに関して、この時日本は寛大な扱いをし、世界に日本という国の存在感を示しました。食糧は当時の日本の将兵を上回る経費をかけ、将校クラスを中心に「自由外出」がとられたほか、道後温泉で集団入浴をしたり、遊廓にいたり、松山市内の商店街でアルコール類を購入したり、妻子をよびよせ借家に住んだり.....とかなり自由な生活でした。そのほか、自転車競争や芝居見物、大相撲を見物させるなどの娯楽のほか、読み書きのできない兵卒には読み書きの教育をほどこしたりもしました。将校クラスはかなりの大金をもっていたので旺盛な消費を繰り返し、「捕虜景気」がわきおこり、町はずいぶん活性化しました。本ドラマでは、ロシア軍の少尉である青年と、松山市内の女性との恋を軸に、エンターテインメントと歴史的事実をおりませた「人間ドラマ」として描きます。



【物語】

2018年、ヒロイン桜子はロシア兵基地の取材でロシアに行くことが決定していたがその仕事に興味を持ってなかった。しかし、祖母菊枝から自分のルーツがロシア兵にあると知り、興味を持ち始める。手がかりはロシアから届いた謎の手紙とソローキン、ゆいの日記。日露戦争時、傷ついたロシア兵の看護をしていたゆいは兄の健二を戦争で無くし、心の奥底ではロシア兵を許せないでいた。ソローキンはゆいの心の奥の悲しみを知り、その悲しみを取り除いてあげたいと願っていた。ゆいはソローキンの寛大な心と女性を尊敬する考え方に、ソローキンはゆいの献身的な看護の優しさにふれ、お互いに惹かれあって行く。しかし、松山市民と捕虜との交流は深まっていたが、戦争中という特殊な状況下、ソローキンとゆいの愛は許されなかった。

【主な登場人物】 ()内は年齢

(現在)

- 高宮桜子(24)……TVディレクター、好奇心旺盛。
※武田ゆいと2役。
- 高宮菊江(75)……桜子の祖母。

(1904年 日露戦争時)

- ◎武田ゆい(24)……篤志看護婦※高宮桜子と2役。
- ◎ソローキン(24)……ロシア軍捕虜。ペテルブルグ大卒。少尉。
- ◎河野舜庵(48)……マツヤマ収容所長。陸軍大佐。
- ◎ボイスマン(50)……ロシア軍捕虜。大佐。捕虜のとりまとめ役。



ゆい&桜子役

阿部純子 カンヌ国際映画祭出品作

河瀬直美監督「二つ目の窓」主演



河野所長役

イッセー尾形

アレクサンドル・ソクーロフ監督映画「太陽」主演

マーティン・スコセッシ監督

映画「沈黙」出演



ボイスマン役

アレクサンドル・ドモガロフドラマ「スパイ・ゾルゲ」主演